

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 2023年11月14日

【四半期会計期間】 第46期第2四半期(自 2023年7月1日 至 2023年9月30日)

【会社名】 日本プリメックス株式会社

【英訳名】 NIPPON PRIMEX INC.

【代表者の役職氏名】 代表取締役会長兼社長 中 川 善 司

【本店の所在の場所】 東京都大田区鵜の木一丁目5番12号

【電話番号】 03(3750)1234

【事務連絡者氏名】 取締役 管理本部長 真 岡 厚 史

【最寄りの連絡場所】 東京都大田区鵜の木一丁目5番12号

【電話番号】 03(3750)1234

【事務連絡者氏名】 取締役 管理本部長 真 岡 厚 史

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

回次		第45期 第2四半期 連結累計期間	第46期 第2四半期 連結累計期間	第45期
会計期間		自 2022年4月1日 至 2022年9月30日	自 2023年4月1日 至 2023年9月30日	自 2022年4月1日 至 2023年3月31日
売上高	(千円)	2,911,162	3,214,475	6,172,487
経常利益	(千円)	396,936	385,746	634,909
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益	(千円)	245,720	264,942	396,617
四半期包括利益又は 包括利益	(千円)	270,982	394,117	481,301
純資産額	(千円)	6,659,221	7,158,402	6,869,540
総資産額	(千円)	8,894,704	9,689,989	9,183,607
1株当たり四半期 (当期)純利益	(円)	46.69	50.34	75.36
潜在株式調整後 1株当たり四半期 (当期)純利益	(円)			
自己資本比率	(%)	74.9	73.9	74.8
営業活動による キャッシュ・フロー	(千円)	115,120	168,026	307,741
投資活動による キャッシュ・フロー	(千円)	654,503	46,932	1,662,440
財務活動による キャッシュ・フロー	(千円)	109,458	120,655	136,912
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高	(千円)	3,216,751	1,204,421	1,035,265

回次		第45期 第2四半期 連結会計期間	第46期 第2四半期 連結会計期間
会計期間		自 2022年7月1日 至 2022年9月30日	自 2023年7月1日 至 2023年9月30日
1株当たり四半期純利益	(円)	19.56	21.41

- (注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
- 2 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

#### 2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容に重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」について重要な変更はありません。

### 2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中における将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において、当社グループが判断したものであります。

#### (1) 概要

当第2四半期連結累計期間における国内経済は、夏季休暇のレジャー需要や猛暑による飲料需要は増加し、PCなどの巣ごもり需要品は幾分減少しましたが、新型コロナウイルス感染症が5類感染症へ移行し行動制限が緩和されたにもかかわらず、長期間のコロナ禍生活の常態化による行動力低下、ウクライナ紛争に起因する原油高や急激な円安による物価高騰の影響により消費者の購買意欲は減退しており、経済の急激な回復には至っていない状況です。

一方、当社のミニプリンタ製品の販売状況としては、継続して人手不足によるコンビニ・スーパー・飲食店などの自動精算機向け需要増は継続し、堅調に推移しております。

このような経済状況の中、当社の財政状態及び経営成績は、次の通り比較的堅調に推移致しました。

#### (2) 財政状態

##### (資産)

流動資産は、前連結会計年度末に比べて4.1%増加し、73億42百万円となりました。主な要因は、現金及び預金が71百万円、電子記録債権が70百万円、受取手形、売掛金及び契約資産が42百万円、原材料及び貯蔵品が80百万円それぞれ増加したことによります。

固定資産は、前連結会計年度末に比べて10.3%増加し、23億47百万円となりました。主な要因は、有形固定資産が63百万円、投資その他の資産が1億36百万円それぞれ増加したことによります。

この結果、総資産は、前連結会計年度末に比べて5.5%増加し、96億89百万円となりました。

##### (負債)

流動負債は、前連結会計年度末に比べて9.4%増加し、20億35百万円となりました。主な要因は電子記録債務が1億32百万円増加したことによります。

固定負債は、前連結会計年度末に比べて9.6%増加し、4億96百万円となりました。主な要因は、退職給付に係る負債が20百万円増加したことによります。

この結果、負債合計は、前連結会計年度末に比べて9.4%増加し、25億31百万円となりました。

##### (純資産)

純資産合計は、前連結会計年度末に比べて4.2%増加し、71億58百万円となりました。主な要因は親会社株主に帰属する四半期純利益2億64百万円の計上、剰余金の配当1億5百万円による、利益剰余金の増加1億59百万円です。

1株当たり純資産は、前連結会計年度末に比べて54円89銭増加し、1,360円19銭となり、自己資本比率は、前連結会計年度末より0.9%減少し73.9%となりました。

(3) 経営成績

売上高

当第2四半期連結累計期間の売上高は32億14百万円となり、前年同四半期と比べ、3億3百万円(10.4%)の増加となりました。

なお、商品群別業績は次のとおりであります。

当第2四半期連結累計期間における商品群別売上高は、ミニプリンタメカニズムは76百万円(前年同四半期と比べ1百万円(1.7%)の増加)、ケース入りミニプリンタは17億44百万円(前年同四半期と比べ1億81百万円(11.6%)の増加)、ミニプリンタ関連商品は5億61百万円(前年同四半期と比べ60百万円(12.0%)の増加)、消耗品は2億21百万円(前年同四半期と比べ11百万円(4.8%)の減少)、大型プリンタは66百万円(前年同四半期と比べ13百万円(24.9%)の増加)、その他は5億43百万円(前年同四半期と比べ58百万円(12.0%)の増加)となりました。

売上総利益

当第2四半期連結累計期間の売上総利益は8億61百万円となり、前年同四半期と比べ72百万円(9.2%)の増加となりました。

販売費及び一般管理費

当第2四半期連結累計期間における販売費及び一般管理費は、6億17百万円と前年同四半期と比べ53百万円(9.5%)の増加となりました。

営業利益

当第2四半期連結累計期間における営業利益は2億43百万円となり、前年同四半期と比べ18百万円(8.3%)の増加となりました。

経常利益

当第2四半期連結累計期間における経常利益は3億85百万円(前年同四半期と比べ11百万円(2.8%)の減少)となりました。

親会社株主に帰属する四半期純利益

税金等調整前四半期純利益は3億88百万円(前年同四半期と比べ18百万円(5.0%)の増加)となり、税効果会計適用後の法人税等負担額は1億23百万円(前年同四半期と比べ0百万円(0.6%)の減少)となりました。その結果、当第2四半期連結累計期間における親会社株主に帰属する四半期純利益は2億64百万円(前年同四半期と比べ19百万円(7.8%)の増加)となりました。

(4) キャッシュ・フローの状況の分析

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前年同四半期に比べ20億12百万円減少、前連結会計年度に比べ1億69百万円増加し、12億4百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によって得られた資金は、1億68百万円（前年同四半期は1億15百万円）となりました。主な内訳は、税金等調整前四半期純利益3億88百万円、減価償却費38百万円、為替差益1億24百万円、売上債権の増加1億13百万円、棚卸資産の増加1億1百万円、法人税等の支払額1億36百万円となっております。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によって得られた資金は、46百万円（前年同四半期は6億54百万円）となりました。これは主として定期預金の預入による支出6億44百万円に対し、定期預金の払戻による収入が7億92百万円であったことによるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動により支出した資金は1億20百万円（前年同四半期は1億9百万円）であり、これは主として配当金の支払額1億4百万円によるものであります。

(5) 優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題について重要な変更はありません。

(6) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間の研究開発費の総額は1億29百万円であります。

3 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	22,090,000
計	22,090,000

###### 【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (2023年9月30日)	提出日現在発行数(株) (2023年11月14日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	5,523,592	5,523,592	東京証券取引所 スタンダード市場	単元株式数は100株 あります。
計	5,523,592	5,523,592		

##### (2) 【新株予約権等の状況】

###### 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

###### 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
2023年7月1日～ 2023年9月30日		5,523,592		393,997		283,095

## (5) 【大株主の状況】

2023年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式 (自己株式を 除く。)の総数 に対する所有 株式数の割合 (%)
中川 善司	東京都大田区	1,761	33.46
中川 悦子	東京都大田区	889	16.90
光通信株式会社	東京都豊島区西池袋1丁目4番10号	394	7.49
雪谷商事株式会社	東京都大田区東雪谷1丁目32番13号	270	5.13
中川 亮	東京都大田区	221	4.21
中川 優	東京都大田区	221	4.21
日本プリメックス従業員持株会	東京都大田区鵜の木1丁目5番12号	192	3.65
上原 幸	埼玉県蕨市	164	3.12
株式会社三菱UFJ銀行	東京都千代田区丸の内2丁目7番1号	100	1.90
株式会社みずほ銀行	東京都千代田区大手町1丁目5番5号	90	1.71
計		4,303	81.78

(注)上記のほか当社所有の自己株式 260千株があります。

## (6) 【議決権の状況】

## 【発行済株式】

2023年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 260,800		
完全議決権株式(その他)	普通株式 5,261,400	52,614	権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式であります。
単元未満株式	普通株式 1,392		同上
発行済株式総数	5,523,592		同上
総株主の議決権		52,614	

(注)「単元未満株式」欄の普通株式には、当社保有の自己株式2株が含まれます。

## 【自己株式等】

2023年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 日本プリメックス株式会社	東京都大田区鵜の木 1丁目5番12号	260,800		260,800	4.72
計		260,800		260,800	4.72

## 2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間における役員の異動は、次のとおりであります。

## (1) 退任役員

役職名	氏名	退任年月日
取締役執行役員国内営業副本部長 兼東京営業部長	渡辺 良雄	2023年9月23日

## (2) 異動後の役員の男女別人数及び女性の比率

男性9名 女性 名 ( 役員のうち女性の比率 % )



## 第4 【経理の状況】

### 1 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

### 2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（2023年7月1日から2023年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（2023年4月1日から2023年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、アーク有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

## 1 【四半期連結財務諸表】

## (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	4,654,949	4,726,162
受取手形、売掛金及び契約資産	1,082,920	1,125,856
電子記録債権	485,168	555,939
商品及び製品	553,184	576,047
仕掛品	5,915	4,253
原材料及び貯蔵品	270,608	351,144
その他	2,626	5,478
貸倒引当金	313	2,094
流動資産合計	7,055,059	7,342,787
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	198,432	200,154
機械装置及び運搬具(純額)	8,916	10,460
工具、器具及び備品(純額)	35,977	35,547
土地	963,918	1,023,767
リース資産(純額)	85,211	70,843
建設仮勘定	-	15,000
有形固定資産合計	1,292,456	1,355,773
無形固定資産		
その他	27,312	46,027
無形固定資産合計	27,312	46,027
投資その他の資産		
投資有価証券	700,749	885,556
繰延税金資産	93,289	44,304
その他	15,302	16,053
貸倒引当金	562	512
投資その他の資産合計	808,779	945,401
固定資産合計	2,128,548	2,347,201
資産合計	9,183,607	9,689,989

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	546,945	587,425
電子記録債務	989,565	1,122,156
未払法人税等	143,581	137,870
賞与引当金	52,464	56,675
その他	128,514	131,125
流動負債合計	1,861,072	2,035,254
固定負債		
役員退職慰労引当金	182,032	196,690
退職給付に係る負債	240,816	261,407
その他	30,146	38,234
固定負債合計	452,994	496,332
負債合計	2,314,067	2,531,586
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	393,997	393,997
資本剰余金	283,095	283,095
利益剰余金	6,282,214	6,441,901
自己株式	158,900	158,900
株主資本合計	6,800,407	6,960,094
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	69,132	198,307
その他の包括利益累計額合計	69,132	198,307
純資産合計	6,869,540	7,158,402
負債純資産合計	9,183,607	9,689,989

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2022年4月1日 至2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2023年4月1日 至2023年9月30日)
売上高	2,911,162	3,214,475
売上原価	2,121,745	2,352,814
売上総利益	789,416	861,660
販売費及び一般管理費	564,200	617,825
営業利益	225,215	243,835
営業外収益		
受取利息	525	3,656
受取配当金	17,043	18,665
為替差益	154,158	119,622
その他	976	774
営業外収益合計	172,703	142,719
営業外費用		
支払利息	974	672
その他	8	136
営業外費用合計	983	809
経常利益	396,936	385,746
特別利益		
固定資産売却益	-	2,857
特別利益合計	-	2,857
特別損失		
固定資産除却損	0	69
投資有価証券評価損	26,845	-
特別損失合計	26,845	69
税金等調整前四半期純利益	370,091	388,534
法人税、住民税及び事業税	142,390	130,276
法人税等調整額	18,019	6,684
法人税等合計	124,371	123,591
四半期純利益	245,720	264,942
親会社株主に帰属する四半期純利益	245,720	264,942

## 【四半期連結包括利益計算書】

## 【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2022年4月1日 至2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2023年4月1日 至2023年9月30日)
四半期純利益	245,720	264,942
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	25,262	129,175
その他の包括利益合計	25,262	129,175
四半期包括利益	270,982	394,117
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	270,982	394,117
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

## (3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	370,091	388,534
減価償却費	41,166	38,808
投資有価証券評価損益(は益)	26,845	-
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	19,524	20,590
役員退職慰労引当金の増減額(は減少)	4,431	14,658
賞与引当金の増減額(は減少)	4,369	4,211
貸倒引当金の増減額(は減少)	25	1,730
受取利息及び受取配当金	17,568	22,322
為替差損益(は益)	163,574	124,162
有形固定資産売却損益(は益)	-	2,857
売上債権の増減額(は増加)	76,202	113,707
棚卸資産の増減額(は増加)	131,838	101,736
仕入債務の増減額(は減少)	3,536	173,070
未払消費税等の増減額(は減少)	9,167	10,229
その他	1,344	16,164
小計	233,910	282,754
利息及び配当金の受取額	17,300	22,000
利息の支払額	974	672
法人税等の支払額又は還付額(は支払)	135,115	136,056
営業活動によるキャッシュ・フロー	115,120	168,026
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の預入による支出	362,754	644,887
定期預金の払戻による収入	1,030,486	792,139
有形固定資産の取得による支出	12,788	135,770
有形固定資産の売却による収入	-	44,000
その他	439	8,548
投資活動によるキャッシュ・フロー	654,503	46,932
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
配当金の支払額	103,777	104,929
その他	5,681	15,726
財務活動によるキャッシュ・フロー	109,458	120,655
現金及び現金同等物に係る換算差額	109,249	74,854
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	769,414	169,156
現金及び現金同等物の期首残高	2,447,336	1,035,265
現金及び現金同等物の四半期末残高	3,216,751	1,204,421

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

四半期連結会計期間末日満期手形、電子記録債権及び電子記録債務

四半期連結会計期間末日満期手形、電子記録債権及び電子記録債務の会計処理については、手形交換日及び決済日をもって決済処理しております。

なお、当第2四半期連結会計期間末日が金融機関の休日であったため、次の四半期連結会計期間末日満期手形、電子記録債権及び電子記録債務が、四半期連結会計期間末残高に含まれております。

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年9月30日)
受取手形	千円	3,143千円
電子記録債権	千円	13,507千円
支払手形	千円	1,534千円
電子記録債務	千円	173,063千円

(四半期連結損益計算書関係)

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自2022年4月1日 至2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2023年4月1日 至2023年9月30日)
物流委託費	29,684千円	30,581千円
従業員給料手当	164,904千円	178,029千円
役員退職慰労引当金繰入額	5,006千円	12,679千円
退職給付費用	13,547千円	15,237千円
賞与引当金繰入額	31,470千円	35,285千円
法定福利費	34,585千円	38,000千円
研究開発費	123,548千円	129,642千円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自2022年4月1日 至2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2023年4月1日 至2023年9月30日)
現金及び預金	4,580,525千円	4,726,162千円
預入期間が3か月を超える定期預金	1,363,774千円	3,521,740千円
現金及び現金同等物	3,216,751千円	1,204,421千円

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2022年6月27日 定時株主総会	普通株式	105,255	20	2022年3月31日	2022年6月28日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2023年6月26日 定時株主総会	普通株式	105,255	20	2023年3月31日	2023年6月27日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。



(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)

当社グループの報告セグメントが「ミニプリンタの開発・製造・販売事業」のみであるため、記載を省略しております。

当第2四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)

当社グループの報告セグメントが「ミニプリンタの開発・製造・販売事業」のみであるため、記載を省略しております。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報

前第2四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)

(単位:千円)

商品群別	顧客との契約から生じる収益	その他の収益	外部顧客への売上高
ミニプリンタメカニズム	75,320		75,320
ケース入りミニプリンタ	1,563,377		1,563,377
ミニプリンタ関連商品	501,772		501,772
消耗品	232,466		232,466
大型プリンタ	53,172		53,172
その他	480,073	4,980	485,053
合計	2,906,182	4,980	2,911,162

当第2四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)

(単位:千円)

商品群別	顧客との契約から生じる収益	その他の収益	外部顧客への売上高
ミニプリンタメカニズム	76,598		76,598
ケース入りミニプリンタ	1,744,993		1,744,993
ミニプリンタ関連商品	561,941		561,941
消耗品	221,199		221,199
大型プリンタ	66,395		66,395
その他	537,531	5,815	543,347
合計	3,208,660	5,815	3,214,475

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
1株当たり四半期純利益	46円69銭	50円34銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益(千円)	245,720	264,942
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純利益(千円)	245,720	264,942
普通株式の期中平均株式数(千株)	5,262	5,262

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

## 2 【その他】

該当事項はありません。

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

2023年11月14日

日本プリメックス株式会社  
取締役会 御中

アーク有限責任監査法人  
東京オフィス

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 二階堂 博文

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 八巻 優太

### 監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている日本プリメックス株式会社の2023年4月1日から2024年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（2023年7月1日から2023年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（2023年4月1日から2023年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、日本プリメックス株式会社及び連結子会社の2023年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

### 監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 四半期連結財務諸表に対する経営者及び監査等委員会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査等委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

### 四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められ

いかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。

- ・ 四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査等委員会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

#### 利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

---

(注) 1 上記の四半期レビュー報告書の原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2 XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。